特集：第56回 全国知的障害福祉関係職員研究大会 山口大会

大会概要

1. 大会テーマ

「夢や希望をかなえあえる未来へ」～みんなで語ろう！ 明日にかける 障害者福祉への熱き思いを～

2. 大会趣旨

明治維新150年の今年、図らずも本大会を山口の地で開催することは何かの縁なのでしょうか。

明治から大正、昭和、平成に至るこの150年のあいだの、我が国の知的障害者と呼ばれている人たちの人生は、生活は、どのようなものだったでしょうか。

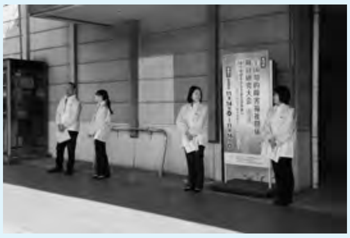
また、戦後70有余年を経て、我が国の知的障害者福祉は、社会の理解と共感を得て、人と人とが支え合う社会基盤、生活基盤となったでしょうか。

一人の人間の命がこの世に生きるために、いったいどれほど多くの人間の命の支え合いがあるのか。人は誰もがお互い支え合って生きているのです。

競争原理や効率性の社会。それらを追い求めてやまない時代にあって、果たして知的障害者福祉はどこまで根づいているでしょうか。

私たちはこのような疑問や問題意識を胸に抱いて、これからの知的障害者福祉を展望し、知的障害者と呼ばれている人たちの人生と生活をより明るく、より豊かに、より充実したものとするために、本大会を知恵と力と勇気を出し合う大会にしたいと思います。

さあ、『夢や希望をかなえあえる未来へ』向かって、『みんなで語ろう 明日にかける 障害者福祉への熱き思いを！！』



3. 会期

平成30年11月14日（水）・15日（木）・16日（金）

4. 会場

○全体会　山口市民会館　大ホール・小ホール
○分科会　山口市内各会場
○情報交換会　ホテルニュータナカ・ホテルかめ福

5. 参加者

（1）知的障害福祉関係職員及び教育関係者、関係行政職員等
（2）全国手をつなぐ育成会連合会会員、全国知的障害者施設家族会連合会会員等
（3）一般の方々で福祉に関心のある方

6. 内容

◆11月14日（水）　第1日

11：30～12：20　**受付**
12：20～12：50　**ウェルカムアトラクション**
　　ウォーターアート®パフォーマンス　堀川玄太氏
13：00～14：00　**開会式・表彰式**
14：00～15：00　**行政説明「障害保健福祉施策の動向」**
　　源河真規子氏　厚生労働省　社会・援護局　障害保健福祉部　障害福祉課課長
15：20～17：00　**基調講演「知的障害のある人の支援の未来　ICT技術の進化や情報インフラの整備等が知的障害のある人の支援に及ぼす可能性」**
　　中邑賢龍氏　東京大学先端科学技術研究センター　人間支援工学分野教授
17：00～18：30　**移動**
18：30～20：30　**情報交換会**（会場：ホテルニュータナカ・ホテルかめ福）

◆11月15日（木）　第2日

9：00～ 9：30　**受付**
9：30～16：30　**各分科会**
　　第1分科会　「未来を育む」　障害児支援の未来を語ろう
　　第2分科会　「豊かな暮らし」　高齢知的障害者の豊かな生活を支援する
　　第3分科会　「生きがい」　暮らしと生きがいをともに創る「地域共生社会」
　　第4分科会　「活躍」　障害のある人の働き方・丸ごと～一億総活躍社会で働く～
　　第5分科会　「生きる」　終の住処としてのグループホーム
　　第6分科会　「話してみよう」　夢や希望をかなえあえる未来へ ～権利擁護と意思決定支援～
　　第7分科会　「見直そう」　虐待の根絶を目指す地方会の取り組みから学ぶ

◆11月16日（金）　第3日

8：30～ 9：00　**受付**
9：00～10：45　**特別講演Ⅰ「ドキュメンタリー映画『ふたりの桃源郷』への思い」**
　　佐々木聰氏　KRY山口放送テレビ制作部　ディレクター
11：00～12：15　**特別講演Ⅱ「成年後見制度を考える～講談で学ぶ成年後見制度～」**
　　神田織音氏　講談師
12：15～12：30　**閉会式**

特集

第 56 回 全国知的障害福祉関係職員研究大会
山口大会

1 日目――開会式　全国から約 1,800 名が参加

日　時　2018 年 **11 月 14 日(水)・15 日(木)・16 日(金)**
会　場　**山口市民会館 他**
大会テーマ　**夢や希望をかなえあえる未来へ**
～みんなで語ろう！ 明日にかける　障害者福祉への熱き思いを～

平成 30 年度知的障害者福祉事業功労者表彰
表彰者 588 名を代表し、山口県・ひかり苑の浴紀文氏に表彰盾を授与、謝辞が述べられた

1 日目の情報交換会――山口県周南地区で活動する、障害のある人たちが中心となって結成された「楽団・みかんの花」が演奏を披露

3 日目――特別講演Ⅱ「成年後見制度を考える～講談で学ぶ成年後見制度～」講談師・神田織音氏の講談

2 日目――第 6 分科会「話してみよう」夢や希望をかなえあえる未来へ～権利擁護と意思決定支援～

大会受付では山口県 PR 本部長「ちょるる」が参加者をお出迎え

本文 6 ページから

大会アラカルト

はじめに

昨年の愛知大会最終日での山口３人娘による山口県の紹介、山口県知的障害者福祉協会会長扮（ふん）する吉田松陰でご案内した１年２ヵ月後、「ふく」（山口県では「ふぐ」を「ふく」と言います）の本格的なシーズンを迎えた11月に第56回山口大会を開催することができました。例年であればこの時期は１日の寒暖の差が大きいのですが、３日間、天候にも恵まれ、暖かい中で開催できたことをうれしく思います。

山口大会に向けて

山口県知的障害者福祉協会では、前々大会の北海道大会、前大会の愛知大会の視察をし、準備に取り掛かりました。過去２大会はいずれも大都市での開催でありましたが、山口市は小さな都市ということで、参加された皆様にはご不便をお掛けした点もあったのではないかと思います。

愛知大会終了後に実行委員会を立ち上げ、山口県内のほとんどの事業所から大会スタッフを派遣し、総務部・運営部・事業部に分かれ本格的な準備を開始しました。各部での会議と３部合同会議を重ね、参加目標人数は1,200名に設定。実際には1,800名を超える方々にご参加いただきました。

夢や希望をかなえあえる未来へ

今大会のテーマは「夢や希望をかなえあえる未来へ～みんなで語ろう！ 明日にかける　障害者福祉への熱き思いを～」。

開会式では日本知的障害者福祉協会井上会長よりご挨拶をいただきました。その中で、「障害をもつ利用者個人を直そうとしたり、変えようとしたりするのではなくて、私たちの支援の方法や環境を整えることに力を注いでいただきたい」とのお言葉がありました。このことは平成25年度から各都道府県で始まっております、強度行動障害支援者養成研修での学びとリンクしました。利用者個人を直そうとしたり、変えようとすることは、時として行動障害を強化させてしまう原因の一つとなります。研修を受けたからすぐできるわけではありません。研修で学んだことを実際の支援の現場にどう活用していくかで悩まれている方も多いのではないでしょうか。そのためには、みんなで語り合いながらチームで取り組むということが重要になってきます。

基調講演では、東京大学先端科学技術研究センター人間支援工学分野教授・中邑賢龍氏より「ICT技術の進化や情報インフラの整備等が知的障害のある人の支援に及ぼす可能性」としてご講演いただきました。

前日は利用者の方も一緒に資料袋詰め

地区別参加者数（大会関係者を含む）

地　区	北海道	東北	関東	東海	北陸	近畿	中国	四国	九州	合 計
参加者	86	59	357	128	36	128	641	138	258	1,831
	4.7%	3.2%	19.5%	7.0%	2.0%	7.0%	35.0%	7.5%	14.1%	100.0%

分科会参加者

分科会	分科会１	分科会２	分科会３	分科会４	分科会５	分科会６	分科会７	なし	合 計
参加者	155	442	174	172	183	185	220	24	1,555
	10.0%	28.4%	11.2%	11.1%	11.8%	11.9%	14.1%	1.5%	100.0%

会場移動にはシャトルバスを利用

受付風景、利用者の方にもご協力いただきました

講演ではICTの活用の仕方によっては、障害が障害でなくなること、例えば仕事を欠勤する時にはLINEで連絡しては駄目なのか。どうして電話でないといけないのか。といった、斬新なお話がありました。一般的にこの場面ではこうでなければならないという価値観（固定概念）が誰しもあるのではないかと思います。その価値観（固定概念）というものを根本的に大きく変えるヒントをいただけました。このように発想の転換・柔軟な対応が、これからの障害者福祉には必要であることを学ばせていただきました。

初日の情報交換会では、当初予定しておりました人数を大幅に上回るお申し込みをいただき、急遽会場を追加することとなりました。それぞれの会場で「みんなで語ろう！」を実践いただけたことと思います。

また、２日目の７つの分科会ではいずれも未来を見据えたテーマであったのではないでしょうか。分科会は各会場とも熱気に包まれており、参加者皆さんの熱き思いを感じることができました。

最終日の特別講演Ⅰでは、地元テレビ局のドキュメンタリー映画「ふたりの桃源郷」が上映されました。“生きる”ことの原点、現代における“幸せの形”のヒントを知ることができたと感じています。

特別講演Ⅱでは、講談師の神田織音氏より、成年後見制度について、わかりやすくご講談いただきました。

SNSでの情報配信

昨年の愛知大会に引き続き、SNS（LINE）を利用した情報配信にもチャレンジしました。個人情報保護の観点からLINEに“友だち登録”することを敬遠された方も多かったのではないかと思いますが、文章だけではわかりにくいことを画像で知ることができ、理解しやすくなります。個人情報を収集されることはありませんので、来年の鹿児島大会でもLINEを使った情報配信をされてはいかがでしょうか。情報配信がされる場合にはぜひみなさんに登録していただけることを願っております。

また、山口大会では会場の様子や忘れ物といった画像以外に、山口弁講座を配信させていただきました。方言はその土地の文化であると考えます。山口という土地の文化に触れていただけたことをうれしく思います。

おわりに

アンケートのご協力、誠にありがとうございました。アンケートでは概ね良かったとの評価をいただいております。これもひとえに大会にご参加いただきました皆様、そして運営スタッフと大会に携わったすべての皆様のおかげです。３日間という短い日程ではありましたが、すべての皆様に感謝申し上げます。

維新150年の節目の年ということで、山口県民としては特別な思いの中での大会開催を無事に終えることができました。長州から薩摩へ、バトンを引き継いでいただきましたが、次回の鹿児島大会のご盛会を心よりお祈り申し上げます。

閉会式――次年度開催地、鹿児島県水流会長の挨拶
2019年10月22日（火）・23日（水）・24日（木）に開催